

6 精 監 査 第 9 号
令和 6 年 8 月 1 6 日

精華町長 杉浦 正省 様

精華町監査委員 井 上 直 樹

同 松 田 孝 枝

令和 5 年度精華町公共下水道事業特別会計決算の審査意見について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により審査に付された令和 5 年度精華町公共下水道事業特別会計決算を審査したので、その結果について次のとおり意見を提出します。

第 1 審査の期間

令和 6 年 6 月 21 日から 8 月 16 日まで

第 2 審査の手続

町長から提出された決算諸表が、公共下水道事業の財政状態及び経営成績を適正に表示しているかどうかを検証するため、会計諸帳簿と関係証拠書類との照合やその他必要と認められる審査手続を実施した。また、公共下水道事業が常に効率的経済的運営を図りながら、町民の日常生活に密着する公営企業として円満な事業サービスの提供に努めているか等、その事業運営の適否と正確な経営成績内容の把握を主眼とし、関係職員から説明を聴取した。

第 3 審査の結果

- 1 審査に付された決算諸表は、前記により審査した限りにおいて、地方公営企業法その他関係法令に従って作成され、その計数は正確であり、財政状態及び経営成績を適正に表示しているものと認める。
- 2 予算の執行、経理事務及び財産の管理など財務に関する事務の執行は、地方公営企業法の経営の基本原則の趣旨に沿って適正に処理されているものと認める。

第4 補足意見

1 財政状態について

精華町公共下水道事業は、平成31年4月より地方公営企業法の適用を受ける事業に移行した。地方公営企業法適用後、2度目の公共下水道事業特別会計決算となった令和2年度において、一般会計繰入金のうち総務省通知による繰出基準に該当する繰入金は他会計負担金に、該当しない繰入金は他会計補助金に計上するなどの受入科目の整理を行っている。なお、前々年度及び前年度において、総務省通知による繰出基準に該当しない繰入金は行われていなかったが、当年度において、他会計補助金が751千円計上されている。

当年度の損益計算書における経常利益は17,207千円（前年度11,786千円）であるが、営業外収益に一般会計からの繰入金である他会計負担金が349,554千円（前年度330,180千円）計上されている。つまり、一般会計繰入金があつての損益構造であり、公共下水道事業単独で収支が成り立つ状況にはない。

また、当年度末の貸借対照表において、現金預金が182,963千円（前年度401,611千円）計上されている。損益計算書の営業収益630,655千円（前年度624,116千円）に対し、約3.5か月分の現金残高であるが、有形固定資産28,040,013千円（前年度28,227,057千円）の更新や維持管理も考慮すれば、財政状態が安定しているとは言えない。さらに、当年度末における企業債残高が8,265,476千円（前年度8,433,288千円）と多額であり、当年度においても647,912千円（前年度661,941千円）の償還を行っている。令和6年度においても、流動負債に計上された企業債残高636,673千円の返済が見込まれる。企業債の償還期限が令和34年度まで設定されており、今後も企業債の返済負担が長期に渡り続いていくこととなる。

当年度においても、令和元年10月に実施した下水道使用料改定による増収効果を得ているが、引き続き、厳しい財政状況を鑑み、経営状況の迅速で精緻な把握に努めるとともに、資金繰り状況を注視する必要がある。

第5 決算の概要

1 事業運営の概況

公共下水道事業の経営成績の基準となる各業務の実績は、以下のとおりである。

ア 年間総処理水量は、3,561,709 m^3 で、前年度の3,479,849 m^3 よりも81,860 m^3 （2.4%）の増加

イ 年間総有収水量は、3,757,026 m^3 で、前年度の3,774,553 m^3 よりも17,527 m^3 （0.5%）の減少

ウ 下水道使用料は、571,586千円で、前年度の574,065千円よりも2,479千円（0.4%）の減少

エ 年度末処理面積は、786.9ヘクタールで、前年度の786.5ヘクタールよりも0.4ヘクタール（0.05%）の増加

オ 年度末水洗化人口は、35,114人で、前年度の35,278人よりも164人（0.5%）の減少

公共下水道の供用開始面積は、既存地区及び開発地区合わせ前年度末現在786.5ヘクタールから当年度末現在で786.9ヘクタールに拡大したが、行政人口の減少等により、水洗化人口は、前年度末現在35,278人から当年度末現在35,114人に減少した。

下水道使用料は、年間総有収水量が減少したことにより、前年度574,065千円と比較して2,479千円（0.4%）減の571,586千円となっている。

2 予算執行状況について

(1) 収益的収入及び支出について

収益的収入及び支出の状況は、次のとおりである。

ア 収益的収入（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	対予算額増減	収入率
公共下水道事業収益	1,794,732	1,736,680	△ 58,052	96.8
営業収益	695,916	687,912	△ 8,004	98.8
営業外収益	1,098,716	1,048,768	△ 49,948	95.5
特別利益	100	0	△ 100	0.0

収益的収入の決算額は、1,736,680千円で、予算額1,794,732千円に対し、58,052千円の減、収入率は96.8%となっている。予算額に対する営業収益の減は、下水道使用料の減等によるもので、営業外収益の減は、他会計補助金の減等によるものである。

イ 収益的支出（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
公共下水道事業費用	1,794,732	1,702,787	0	91,945	94.9
営業費用	1,652,215	1,585,491	0	66,724	96.0
営業外費用	142,417	117,297	0	25,120	82.4
特別損失	100	0	0	100	0.0

収益的支出の決算額は、1,702,787千円で、予算額1,794,732千円に対し、91,945千円の減、執行率は94.9%となっている。予算額に対する営業費用の減は、負担金、人件費、委託料の減等によるもので、営業外費用の減は、消費税の減等によるものである。

(2) 資本的収入及び支出について

資本的収入及び支出の状況は、次のとおりである。

ア 資本的収入（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	対予算額増減	収入率
資本的収入	1,716,954	1,136,403	△ 580,550	66.2
企業債	877,500	480,100	△ 397,400	54.7
他会計負担金	173,793	172,348	△ 1,445	99.2
他会計補助金	187,701	139,783	△ 47,918	74.5
補助金	425,022	332,862	△ 92,160	78.3
受託事業収入	52,938	11,310	△ 41,627	21.4

資本的収入の決算額は、1,136,403千円で、予算額1,716,954千円に対し、580,550千円の減、収入率は66.2％となっている。

イ 資本的支出（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	2,025,221	1,491,604	224,279	309,338	73.7
建設改良費	1,374,307	841,669	224,279	308,359	61.2
固定資産購入費	3,000	2,023	0	977	67.4
企業債償還金	647,914	647,912	0	2	100.0

資本的支出の決算額は、1,491,604千円で、予算額2,025,221千円に対し、309,338千円の減、執行率は73.7％となっている。建設改良費において、翌年度繰越額が224,279千円生じているが、これは、精華第2処理分区整備（下粕・前川）工事、精華14-1号汚水幹線築造（その8）工事、下粕ポンプ場ポンプ施設実施設計業務委託、九百石川2号雨水路整備工事に伴うNTTの電気通信設備の移設補償に係る事業費である。建設改良事業としては、2023年度片町線祝園構内九百石川2号雨水路改修等が実施された。

ウ 収支の状況

収入決算額 1,136,403千円

支出決算額 1,491,604千円

であり、収支差引355,201千円の赤字となっているが、不足分は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額73,604千円並びに当年度分損益勘定留保資金281,597千円で補てんされた。

3 経営成績等

(1) 収益的収支の状況について

損益の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	令和 5 年度	令和 4 年度	増 減	
			金 額	率
営業収支				
営業収益	630,655	624,116	6,539	1.0
営業費用	1,540,920	1,503,920	37,000	2.5
営業利益	△ 910,265	△ 879,804	△ 30,461	－
営業外収支				
営業外収益	1,048,772	1,023,244	25,527	2.5
営業外費用	121,300	131,654	△ 10,354	△ 7.9
営業外利益	927,471	891,590	35,881	4.0
経常利益	17,207	11,786	5,420	－
特別損益	0	0	0	－
特別利益	0	0	0	－
特別損失	0	0	0	－
純利益	17,207	11,786	5,420	－

営業損益は、910,265千円の損失で、前年度と比較して損失が30,461千円増加している。営業外損益は、927,471千円の利益で、前年度と比較して35,881千円（4.0%）増加している。この結果、経常利益は、17,207千円の黒字となった。特別損益の計上がなかったことから、純利益は経常利益と同額の17,207千円で、前年度と比較して5,420千円増加している。

ア 収益について

収益の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、％)

区 分	令和５年度	令和４年度	増 減	
			金 額	率
営 業 収 益	630,655	624,116	6,539	1.0
下水道使用料	571,586	574,065	△ 2,479	△ 0.4
雨水処理負担金	57,724	48,521	9,204	19.0
その他営業収益	1,345	1,530	△ 185	△ 12.1
営 業 外 収 益	1,048,772	1,023,244	25,527	2.5
受取利息	4	4	△ 0	△ 1.4
他会計負担金	349,554	330,180	19,374	5.9
他会計補助金	751	0	751	皆増
長期前受金戻入益	690,488	689,672	816	0.1
引当金戻入益	2,888	3,114	△ 226	△ 7.3
国庫補助金	5,000	0	5,000	皆増
雑収益	87	275	△ 188	△ 68.5
特別利益	0	0	0	－
過年度損益修正益	0	0	0	－
その他特別利益	0	0	0	－
合 計	1,679,427	1,647,361	32,067	1.9

営業収益は、630,655千円で、前年度と比較して6,539千円（1.0％）増加している。これは、雨水路維持管理費等の増加により、雨水処理負担金が9,204千円（19.0％）増加したことなどによるものである。

営業外収益は、1,048,772千円で、前年度と比較して25,527千円（2.5％）増加している。これは、減価償却費等の増加により、他会計負担金が19,374千円（5.9％）増加したこと、また、国庫補助金が5,000千円皆増したことなどによるものである。

以上の結果、総収益は、1,679,427千円で、前年度の1,647,361千円と比較して32,067千円（1.9％）の増加となっている。

イ 費用について

費用の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、％)

区 分	令和５年度	令和４年度	増 減	
			金 額	率
営 業 費 用	1,540,920	1,503,920	37,000	2.5
管渠費	380,430	401,253	△ 20,823	△ 5.2
ポンプ場維持管理費	23,008	20,696	2,312	11.2
雨水路維持管理費	16,767	11,108	5,659	50.9
普及促進費	0	80	△ 80	皆減
総係費	76,505	30,674	45,831	149.4
減価償却費	1,044,127	1,040,109	4,019	0.4
資産減耗費	82	0	82	皆増
営 業 外 費 用	121,300	131,654	△ 10,354	△ 7.9
支払利息	117,221	128,369	△ 11,148	△ 8.7
雑支出	4,080	3,285	794	24.2
特別損失	0	0	0	—
過年度損益修正損	0	0	0	—
合 計	1,662,221	1,635,574	26,646	1.6

営業費用は、1,540,920千円で、前年度と比較して37,000千円（2.5％）増加している。これは、使用料徴収事務等負担金の計上区分の変更等により、管渠費が20,823千円（5.2％）減少していることなどの一方で、同負担金の計上、修繕費及び保険料の増加により、総係費が45,831千円（149.4％）増加したこと、また、委託料の増加により、雨水路維持管理費が5,659千円（50.9％）増加したことなどによるものである。

営業外費用は、121,300千円で、前年度と比較して10,354千円（7.9％）減少している。これは、企業債利息の減少により、支払利息が11,148千円（8.7％）減少したことなどによるものである。

以上の結果、総費用は、1,662,221千円で、前年度の1,635,574千円と比較して26,646千円（1.6％）の増加となっている。

(2) 純利益額等について

令和元年度以降の純利益額及び有収水量率は、それぞれ次表に示すとおりである。

◎ 純利益（損失）額

（単位：千円）

区 別 年度別	純利益（損失）額	利益剰余金
令和元年度	△ 152,392	△ 152,392
令和 2 〃	122,601	△ 29,791
令和 3 〃	65,445	35,654
令和 4 〃	11,786	47,441
令和 5 〃	17,207	64,647

◎ 有収水量率

区 別 年度別	年間総処理水量(m ³)	年間総有収水量(m ³)	有収率
令和元年度	3,525,095	3,777,048	107.1%
令和 2 〃	3,600,521	3,845,948	106.8%
令和 3 〃	3,663,149	3,806,750	103.9%
令和 4 〃	3,479,849	3,774,553	108.5%
令和 5 〃	3,561,709	3,757,026	105.5%

(3) 未収金について

年度末の未収金残高は93,777千円で、前年度末の34,944千円より58,832千円（168.4%）増加している。